

新生徒会執行部による定例朝集会

昨年よりも3日はやい降雪で、校庭が白一色の世界に様変わりしてしまいました。

先日、後期生徒会役員改選が行われ、11月13日(水)に、はじめて新生徒会執行部による定例朝集会が開催されました。

今回のテーマは「後期に頑張りたいこと」です。各学級のスピーチを紹介します。

□ 3年生

A組 石川亜衣梨さん：私の後期の目標は、実力テストでいい点数を取れるよう勉強することです。先生からプリントをもらったり、要点を聴いたりして、苦手なところを克服していきたいです。

B組 星宮魁人さん：後期の目標は、実力テストの点数を下げずに上げていくことです。この頃実力テストの点数が段々下がってきたので、苦手な教科の点数を上げられるよう頑張りたいと思います。一人勉強で、苦手なところをやり、克服していきたいです。

□ 2年生

A組 佐々木優花さん：私の後期の目標は、勉強と部活動の両立です。勉強では前期余り集中出来なかったのが、後期その分頑張りたいです。部活動では、部長と副部長をサポートしていける存在になりたいです。

B組 今野藍理さん：私の後期の目標は、勉強と部活動を頑張ることです。勉強では、苦手な教科をしっかりと勉強して分からないところをなくしたいです。部活動では、1年生みんなを引っ張っていけるよう頑張りたいです。

C組 加藤幹久さん：僕が後期頑張りたいことは、勉強(成績)の順位を上げることです。特に、数学を頑張りたいです。数学では、いつも他の教科より点数が低いので、他の教科より集中して取り組み、平均点を取りたいです。

□ 1年生

A組 斎藤恵さん：私の後期頑張りたいことは、勉強です。これからは、勉強がどんどん難しくなるので、それに伴ってもっと勉強をしっかり頑張りたいです。

B組 斎藤響貴さん：僕が後期頑張りたいことは、あいさつとノートづくりです。あいさつは、相手に聞こえる声で立ち止まって行きたいです。ノートづくりでは、1ページ、一字一字丁寧に書いてがんばりたいです。

この後、突撃インタビューで、3年生の伊藤春

菜さん(3年生)から「皆さんの後期の発表を聴いて、私自身も自分の目標に向かって頑張りたいと思いました。」と感想が述べられました。

平成25年度 中学生防火防災弁論大会

11月7日(木)、協和中学校にて、秋田県消防協会大仙仙北美郷支部主催「平成25年度 中学生防火防災弁論大会」が開催されました。

旧第3地区の4つの学校から5人(協和中学校が開催校で2人)が出場しました。

本校からは、1年生の田村愛美さんが出場しました。結果は努力賞でした。13日の定例朝集会の前に、全校生徒の前で発表がありましたので、紹介します。

「大切なものを守るために」

1年 田村 愛美

皆さんは、防火防災についてどのような考えをもっていますか。また、防火防災に対してどのような取り組みをしていますか。私は2年前まで、防火や防災に興味がなく、避難訓練のときは、「めんどろだな」と思い、指示されたことをただこなし、避難訓練が終わってからの学級活動の時間も先生や友達の話だけをただ聞くだけでした。しかし、2年前3月11日、東日本大震災が起こり、その日以来私は今までの自分の防火防災への取り組み方を反省しました。

東日本大震災が起きたとき、私は小学校で卒業式を練習している途中でした。退場の練習にさしかかったときに揺れが始まりました。はじめはふざけて楽しんでいた人も、揺れが大きくなるにつれて不安を感じ始めたようでした。私は揺れが大きくなっても、特に恐怖を感じませんでした。しかし、周囲では避難が始まると、こわくなって泣いてしまう人も出てきました。とは言っても、その避難でさえも私にとっては、毎回行っている避難訓練と変わらない緊張感のないものでした。

けれども、家に帰ると停電になったり、水道が止まったり、ガスが付かなくなったりし生活が不便な状態になっていたため、私はやっと大変な事が起こったと感じました。ガソリンや灯油も少なくなり、買い物さえも十分にできなくなりました。

そんな中で私は、自分の困っていることに手一杯で、この地震がどこにどのような被害を及ぼしているのか知りませんでした。

震源地になっているところも、秋田と同じような揺れの大きさだと思いこんでいたので、まさか死傷者なんて出ていないと思っていました。

それから三日後にいざ電気が戻り、テレビやインターネットがつながって情報を得たときはとても驚きました。それと同時に秋田が震源地だったらと考えて恐ろしくなりました。

今回の地震の震源地は宮城県沖だったので、秋田は停電などの被害ですみました。秋田でも同じ被害があったらと考えると自分の友達、家族、地域の人たちなど、大切な人はどうなっていたのか、なにより自分自身どうなっていたか想像もつきません。

今までの防火・防災・避難訓練の取り組み方では命を落としていたに違いないと思いました。

今回の東日本大震災の犠牲となってしまった多くの方々は避難勧告を聞き逃したり、聞いていても混乱してしまい指示されている所を逆の方向や別の方向に向かって逃げたりしたそうです。でも、これはこの東日本大震災に限ったことではありません。今は一つの例としてこの地震の名前をあげましたが、今から18年前の阪神淡路大震災の犠牲者の中にもそのような人がいたと思います。日本は地震が多い国なのでいつどこで地震がおこるかわかりません。

そこで私は、被害を最小におさえるために次の二つのことが大切だと思います。

一つめはいつでも災害にあう可能性があるという自覚をもつことです。危機感をもって、常に対処を考えておくことで突然の出来事にも素早く対処できると思います。例えば家族と避難場所を決めるなどしておけば、避難の際に慌てることもないですし、連絡もスムーズに取れると思います。

二つめは自立することです。災害が起こったときに周りに人がいるとは限らないし、最後に自分の身を守るのは自分自身だからです。周りの人に流されずにしっかりと自分で判断して行動するべきだと思います。どんなに大きな災害でも、普段の生活を送るようになれば自然と記憶から薄れていきます。しかし、今言った二つのことを意識することが今すぐできる対策だと思います。私もまだ災害から自分の身を絶対に守れると言えるわけではありませんが、これからは自分の身や大切な人を守っていけるように、意識していきたいです。

本校の田村さんあたりから雨が激しくなり、最後5人目の弁論のときには、雷の音も聞こえてきました。弁論が終わった途端に雨は止みました。この雨にも負けず、5人の弁士は、大きな声で

堂々と発表を終えました。

本校 新県立美術館に早変わり

藤田嗣治の「秋田の行事」が、西仙北中学校にやって参りました。美術の田中先生が新県立美術館より借りて来て、1・2年生の廊下に展示しています。



という、皆さんびっくりするかと思います。実は、約4分の1のレプリカなのです。これを見たら、本物に出会ってみたいですね。機会がありましたら、本物をどうぞご覧下さい。その大きさとダイナミックさに圧倒されます。

3年生の美術の時間に早速鑑賞して利用されていました。

今年度最後の異文化交流会

11月12日(火)、3・4校時に3年A、B組で、国際教養大学の学生が来校し、異文化交流を行いました。当初、数名の来校予定でしたが、本日は、アメリカはハワイ出身の女子学生1名でした。本校勤務のALTと一緒に、図書室でグループ毎に時間を決めて、会話を楽しみました。



◎ 平成25年度 第15回秋田県中学校秋季バドミントン大会

11月9日(土)～10日(日)の2日間にわたり、美郷町美郷総合体育館で、平成25年度 第15回秋田県中学校秋季バドミントン大会が開催されました。結果は次のとおりです。

- ・団体男子 準優勝
準決勝 西仙北2－1 清陵学院
決勝 西仙北0－2 美郷(優勝)
- ・団体女子 3位
準決勝 西仙北1－2 大曲(優勝)
シード決定戦 西仙北2－0 美郷

◎ 中学生の税に関する作文

中学生の税に関する作文で、次の2名が、受賞しました。

- 仙北地域納税貯蓄組合連合会長特別賞
佐藤択哉さん(3年生) 「税の大切さ」
伊藤春菜さん(3年生) 「私の身近な税」

◎ 第63回全国小・中学校作文コンクール

- ・佳作 金子雄大さん(1年生)